「世論を喚起する自決」

中野正剛先生顕彰祭を斎行

厳粛に斎行された中野正剛先生顕彰の神事

憂国の政治家、中野正剛先生を顕彰する「中野正剛先生顕彰祭」が昨年十月二十一日、中野先生の銅像がある福岡市中央区今川一丁目の鳥飼八幡宮で斎行された。

中野正剛先生顕彰会の主催。約四十人が参列した。通常は、銅像の前で行われるが、この日は天候の悪化が伝えられたため、同八幡宮の参集殿を会場にした。

同八幡宮の山内勝二郎宮司を祭主に祝詞奏上、玉串奉奠などの神事が厳かに進められた。このあと、直会（なおらい）が開かれた。食事を楽しみながら、中野先生のご偉業などを語り合った。

顕彰祭が斎行されたのは、第四十八回衆議院議員選挙の投開票日の前日だった。同顕彰会の吉村剛太郎理事長は、神事が終わったあとの挨拶で次のように述べた。

中野先生は、最初の選挙では落選したが、大正九年の衆議院議員選挙で初当選され、以後昭和十七年まで八回連続で当選された。十七年の選挙では福岡市民の支持を受け最高点で当選された。

その後、東條英機に対する批判を強め、同十八年十月二十六日、憲兵隊の取り調べを受け帰宅された日の深夜、腹を切って世論を喚起された。

中野先生は政治家として、人としてどうあるべきかを常に考えておられた。政界、経済界、産業界に問題が多発する今日、われわれも、日本人としていかにあるべきかを考えねばならないと思っている。

話がはずんだ直会

玄洋

館　報
玄洋129号
平成30年1月1日
発　行
一般社団法人
玄洋社記念館
郵便番号 810-0062
福岡市中央区荒戸三丁目
6番36号
西公園ハイツ201号
電 話（092）762-2511
FAX（092）762-2502

玄洋社憲則

第一条　皇室ヲ敬戴ス可シ
第二条　本国ヲ愛重ス可シ
第三条　人民ノ権利ヲ固守ス可シ

今号の主な内容

▽頭山翁はじめ玄洋社物故者を慰霊＝2面
▽司書公追悼会に参列者多数＝3面
▽福岡だより―九州北部豪雨の大きな爪痕＝4面
▽進藤邦彦理事ご逝去＝5面

「アジアは一つ」忘れまじ
玄洋社物故者を慰霊

崇福寺

頭山満翁はじめ玄洋社物故諸先覚の慰霊祭が昨年十月一日、玄洋社墓地のある崇福寺（福岡市博多区千代四丁目）で執り行われた。

厳粛に執り行われた慰霊祭

一般財団法人明道会（山崎拓理事長）の主催で、頭山翁の曾孫、頭山晋太郎氏はじめ玄洋社ゆかりの人など約三十人が参列した。

祭壇に頭山翁の木像が据えられた本堂で、岩月海洞住職を導師に読経があり、参列者が焼香。先覚を顕彰、慰霊した。

挨拶に立った山崎理事長は、この年も慰霊祭を滞りなく終えられたことに謝意を表した。また、ちょうど、衆議院議員選挙の公示を九日後に控えた時期であったことから、安倍晋三首相の「日本は国難に直面している」との訴えを引いて、「玄洋社は、アジアは一つという思想だった。私たちも、そう考えなければならないと思った」と述べた。

◇

二〇二〇年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されるが、慰霊祭では、明道会の山田龍蹊理事が「後世に継承されるべき大切なもの」として記した、財団法人明道会の初代理事長で、前回、一九六四年開催の東京オリンピックで組織委員会会長を務めた安川第五郎氏（明治十九年～昭和五十一年、玄洋社員）の偉業を伝える一文が配布された。

一部を紹介する。

安川氏は、安川電機会長、九州電力会長、日本原子力発電社長、九州山口経済連合会会長など多彩な経済活動をした実業家で、東京オリンピック組織委員会会長に就任の際に朝日新聞の「天声人語」が「すがすがしい」と評した高潔な人柄だった。

安川財閥の創始者、安川敬一郎氏の五男に生まれた安川氏は修猷館中学に入学し、玄洋社の付属道場「明道館」に入門した。東大に進学し、後、安川電機会長に。

昭和二十五年に、戦時中の福岡大空襲で焼けた明道館の再建に乗り出す。仮道場を経て昭和三十七年、現在の明道館（福岡市中央区赤坂一丁目）の落成を迎えた。

筑前風濤録

頭山満と玄洋社

〈13〉

題字は進藤一馬福岡市長

柳　猛直

試練の時代

久光は何かにつけて長溥をたよりにしていた。長溥は薩摩の島津の出で久光とその異母兄・島津斉彬（なりあきら）にとっては大叔父であった。（長溥は島津重豪の末子。斉彬、久光は重豪の曾孫である）つまり長溥は島津斉彬、久光兄弟のおじいさん格に当たるのだが、年齢では長溥は斉彬より二歳年下、久光より六歳年長であった。

薩摩藩主・忠義は若年であり、国父として実権を握っている久光が最も近い親族で英明の誉れ高い黒田長溥に頼ったのも当然である。

黒田長溥と島津斉彬、久光の間には親族ということだけでなく深い因縁があった。

幕末の薩摩藩では第十代藩主・斉興（なりおき）の継嗣問題で斉彬派と久光派に分かれて陰惨なお家騒動が起こっている。

これはお由良騒動ともいわれる。（お由良は斉興の側室で久光の実母。久光を藩主にしたいためにお由良一派が策動したというので、こう呼ばれる）

この騒動で藩内は二つに分かれるのだが西郷隆盛、大久保利通らは斉彬派で久光と対立した。西郷は久光の暗殺を考えたこともある。

騒ぎが大きくなって斉興―久光派に弾圧されて藩外に脱出した人々を長溥は筑前にかくまってや

加藤司書公並びに勤皇党諸烈士追悼会

本堂埋める参列者

節信院

慶応元年、筑前・福岡藩で起きた勤皇派弾圧事件「乙丑（いっちゅう）の獄」で犠牲になった家老、加藤司書公と諸烈士を追悼する会が、司書公の命日に当たる昨年十月二十五日、司書公の菩提寺「節信院」（福岡市博多区御供所町十一）で斎行された。

没後百五十年以上を経た今日も司書公のご遺徳を敬う思いは薄れず、参列者は年々数を増すようで、この日も檀家や司書公を崇敬する人たち百人近くが、司書公の肖像画と木像が祭られた本堂を埋めた。

喜納浩一住職の読経の中で参列者が焼香して慰霊。その後、追悼の清興が披露された。

筑前琵琶旭会の米村旭翔師が、司書公の勤皇家としての功績や壮烈な最期と、京都を追われ大宰府（福岡県太宰府市）に滞在中の三条実美卿ら五卿による司書公助命工作をうたい上げた「加藤司書」を献奏した。続いて明暗流尺八無堂会の方々が「虚空鈴慕」を献笛。

大勢の参列者で埋まった節信院の本堂

筑前今様道場宰都館会員の方々が「加藤司書公」を献吟した。

明治維新史学会会員、力武豊隆氏は「加藤司書公の広島派遣について」と題して講演した。

毎回、綿密な資料調査で司書公に関する興味深い話を聞かせてくれる追悼会恒例の講演で、今回は「元治元年（一八六四年）十二月、広島城内の征長軍議の席で、征長軍総督および出兵諸藩代表を前に、司書公は〃いま、国内で争っている場合ではない〃と熱弁をふるい、征長軍を解兵させた」…。これは有名な話ですが」との前置きで、禁門の変を起因とした第一次長州征伐の際の司書公の広島派遣にまつわる舞台裏を聞かせてくれた。

禁門の変（同年七月十九日）は、長州藩が京都の御所を固めていた会津、薩摩藩を攻撃した戦争。幕府が長州藩征伐に乗り出し、三十五藩十五万の大軍で長州藩に総攻撃をかけようとした。

司書公がこれを中止させたのだが、力武氏は「征長軍の戦闘意欲は、それほど高くはなかった。軍の解兵よりむしろ、京を追われた三条卿ら五卿の処遇が問題だった」と解説した。

そこで、司書公は、五卿の身柄は福岡藩が引き受けることにし、解兵にこぎ着けたのだという。

ったこともある。

この時のこともあって西郷隆盛は後々まで長溥に恩義を感じていた。明治になってから贋札事件で築前藩が窮地に立った時、西郷は親身になって奔走している。

お由良騒動に対する長溥の態度は薩摩藩の内紛を心から憂慮しただけで特に斉彬を助けたり久光を排除したわけではない。

事件をよく知っていた老中・阿部正弘に長溥は「薩州の一件は、ご親族のことではあろうが、あれほど複雑に恩讐がからみ合ったものを、ほかから手を出しても解けるものではない。あなたも手をお引きになるがよろしいと思う」と忠告を受けている。

長溥にしてみれば閣老が見放したものを自分も手を引いてしまえば薩摩はどうなるのだという気持ちであった。

長溥が虚心に薩摩のために尽力してくれたことは久光にも、よくわかっていたので、ことが落着したあと久光は何のわだかまりもなく長溥に頼っていたのである。しかし西郷と久光の間は、しっくりいかず最後まで仲が悪かった。

文久二年、相次いで東上した島津久光と黒田長溥を尊攘浪士たちは歓喜して迎えた。彼らの盟主として担ごうというのである。これは長溥、久光にとって迷惑千万なことであった。

そこから期せずして二つの事件が起こる。一つは表面はいっこうに華々しくない長溥の大蔵谷回駕（かいが）と呼ばれる事件。もう一つは久光の命によって行われた寺田屋騒動である。後者は天下を驚かした大事件だが、この二つの事件は内容は同じ種類のものであった。

長溥の大蔵谷回駕には筑前勤王派の大もの平野次郎国臣が登場してくる。

（この項続く）

福岡だより

九州北部豪雨

大きな爪痕残す

福岡からもボランティア続々

復興の取り組み進む

福岡市から南東に約五十キロ。農業と観光の町として知られる福岡県朝倉市と、その隣の陶芸の里で知られる東峰村は、昨年七月五日の九州北部豪雨で河川は氾濫し、土砂崩れで押し流された立ち木が流木となって家屋や田畑を襲った。短い根がついてはいるが、まるで人の手で皮を剥いだような姿の流木の量は、推定で二十万トンを超えると言われている。

二次、三次の崩壊を防ぐため、大型の土のうを積んだ川の護岸

同市と同村に限れば死者三十三人、行方不明者四人、建物の全壊二百四十四件、半壊八百三十一件（十月五日現在）という被害状況だった。

国や自治体の手で、数日を置かずに応急の復旧作業が開始された。崩壊した河川の堤防には大きな土のうを並べて補強し、通れなくなった道路には、う回道路も設けられた。

同市菱野の堀川用水から水をくむ灌漑（かんがい）用「三連水車」は日本最古の実働する水車として国の史跡に指定されている。同市の観光のシンボルとして見物に訪れる人は多いが、九州北部豪雨では用水に流木が流れ込み土台から七、八十センチくらいまで土砂で埋まった。田んぼに水が必要な時期だっただけに農家や自治体が復旧に取り組み、およそ、ひと月で再び回り始めた。

土砂に埋まった自動車

道路や河川、施設などの復旧は早い。商店、企業なども早々に立ち直る姿が見受けられる。しかし、家を失うなどした住民個々の日常生活は、なかなか元には戻らないようだ。

同市と同村には合わせて百戸を超える仮設住宅が建設され、人が住む。自治体が民間賃貸住宅を借り上げる「見なし仮設」で暮らす人々もいる。

個人にとって、家の再建は容易なことではなかろう。過去の災害の例では、将来に希望が持てずに気力を失う人もいた。公的な手だてが必要なのではないか。

被災した家屋の、床下の土砂の取り除きや家具の運び出しに貢献しているのが、ボランティアの人たちだ。

復旧した「三連水車」

泥が積もった床下に潜り込んで重い土砂をかき出し、一輪車で運ぶ。

ボランティアは、とりまとめ役の非営利法人などに応募して活動する。

福岡では、ＪＲ博多駅の博多口に集合して用意されたバスに乗って現地へ向かう姿が見られた。手弁当。バス代千円も自腹なのだ。

福岡に住む薬剤師の女性（64）は、被害発生直後から土曜、日曜にボランティアバスで現地を訪れ、九月末で十回は行った。「実家が農業で、水害にも遭ったことがある。ひと事ではないですから」という。

賛助会員芳名録

（平成29年9月11日受け付け分まで・敬称略）

▼法人・団体の部

【三万円】

日本碍子清洗工業㈱（香川県高松市）

▼個人の部

【三万円】

花田　勲（東京都）
木下　隆（福岡市）

【二万円】

柴田　繁一（福岡市）

【一万円】

堤田　智（福岡市）
樋口　義則（福岡県粕屋町）
三原　朝彦（北九州市）
久恒　政雄（福岡市）
山城　直之（　同　）
酒井　智堂（鹿児島市）
岳　康宏（福岡市）
真藤　眞榮（東京都）
狭間　直樹（京都市）
箱田　克輔（狛江市）
堀内　恭彦（福岡市）
上田　一郎（福岡県粕屋町）
加藤　幸子（福岡県古賀市）
井村　哲（福岡市）
飯島　健児（東京都）
池尻　昭文（福岡市）

＊

◆新年、福岡市博物館で「新収蔵品展」　福岡市博物館（福岡市早良区百道浜三）は、一月七日（日曜）から「第29回新収蔵品展」を開催する。

同博物館が平成二十六年度に収集した歴史、民俗、美術の各分野の資料から「黒田長政像」「極々秘書　寸美奈和乃記」など〝ふくおかの歴史とくらし〟に関わる資料が展示される。

同博物館は、新たに収集した資料を整理、調査した上で毎年、公開している。

会期は二月十二日（月・振替休日）まで。月曜休館。ただし一月八日（月・祝）は開館し翌日休館。料金は一般二〇〇円、高大生一五〇円、中学生以下は無料。

進藤邦彦理事ご逝去

進藤一馬先生を支える

故進藤邦彦氏

元福岡市議会議員で福岡市南区選挙管理委員会委員長、玄洋社記念館理事の進藤邦彦氏が昨年九月八日、大動脈瘤（りゅう）解離のため福岡市の病院で逝去された。七十九歳だった。

大勢の参列者が訪れ、しめやかに執り行われた葬儀

同十一日、福岡市南区野間の葬祭場で葬儀が営まれた。政官界はじめ地元である同市南区の地域団体関係者、玄洋社記念館関係者ら大勢が会葬した。

進藤氏は玄洋社記念館の創設者で玄洋社第十代社長、元衆議院議員、元福岡市長、故進藤一馬先生の甥（おい）。一馬先生の秘書を経て、福岡市議会議員を昭和六十二年から平成十七年まで五期二十年務めた。一馬先生の政治活動を支え、また玄洋社記念館理事として一馬先生の意志を帯して運営に腐心された。

市議としては南区の発展に取り組み、平成二十二年の秋の叙勲で地方自治功労により「旭日小綬章」を受章された。祝賀会の席で「今後の人生は、玄洋社先覚に倣って世直し、人づくりに関わりたい」と語っておられた。

訂正　平成29年9月1日付1面「廣田先生顕彰祭を斎行」の記事で「玄洋社に政治を学ぶ議員の会」（阿部真之助会長）とあるのは（光安力会長）の誤りでした。お詫びして訂正します。

建設コンサルタンツ
建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理
ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社
代表取締役会長　花田　勲
代表取締役社長　児玉　和久
本社　福岡市博多区東比恵三丁目二四—九　〒八一二—〇〇〇七　電話（092）481—3100
東京支社　東京都杉並区高円寺南一—二三—一　〒一六六—〇〇〇三　電話（03）5378—5800
営業所　千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎

福岡鮮魚市場のコア企業!!　21世紀の水産業界を領導するアキラグループ
AKIRA　Oh, Fresh! Sea foods.
◇鮮魚仲卸業◇
株式会社　アキラ水産
代表取締役社長　安部　泰宏
本社　福岡市中央区長浜3丁目11—3—711　電話092—711—6601（代表）
関連会社／株式会社コウトク水産

損害保険コンサルタント
太宰府天満宮前駐車場
漢方薬相談　とおりゃんせ
㈲日産企画　大江田　信
薬剤師　大江田　美子
〒818-0117　太宰府市宰府三丁目四—二十一
☎〇九二—九二四—六二九六

造園・緑化　自然とコミュニケーション
株式会社　別府梢風園
代表取締役社長　別府　壽信
BEPPU
本社　〒813-0025　福岡市東区青葉一丁目六—五三
TEL〇九二—六九一—〇六七八㈹
FAX〇九二—六九一—四五五四
E-mail：info@shoufuen.co.jp

(財)日本医療機能評価機構認定
開放型病院・臨床研修指定病院
HARADOI HOSPITAL
原土井病院
理事長　原　寛
〒813-8588
福岡市東区青葉6丁目40番8号
☎092-691-3881（代）
http://www.haradoi-hospital.com/

玄洋社関係史料の紹介

石瀧　豊美

第71回

同時代から見た頭山満⑮
―書と人物―

浦辺登著『玄洋社とは何者か』（平成二十九年七月、弦書房）には、頭山満書「殺身成仁」の四文字が表紙に浮かび上がっている。この文字は福岡市博多区千代、崇福寺（そうふくじ）の玄洋社墓地にある五輪塔から採ったものだ。

同書を紹介した西日本新聞（九月十七日、読書欄）の記事に、野中彰久記者が、玄洋社をテロリスト集団とみる人もいるが、（確かに、玄洋社の中心人物だった頭山満は「殺身成仁」（身を殺して仁を成す）という自爆テロを勧奨するかのような言葉を残している。）

写真１　玄洋社墓地全景。中央の五輪塔の正面には上から獨・朗・天・眞の四文字、最下段に「先亡霊塔」と書かれている（最下段は確かに頭山満の書）。昭和十一年十月改葬の折、立ち並んでいた玄洋社員の墓標を整理し、全物故者を弔うために五輪塔が建てられたもの。

と書いている。「自爆テロを勧奨するかのような言葉」というのは全くの誤解である。最近はフェイクニュース（虚偽の情報）が話題になるが、誤った情報でもいったん活字になると、無条件でそれを信じる人が現れる。活字にすることの怖さである。

「殺身成仁」の書については、すでに本紙一二三号（平成二十八年一月一日）で取り上げたことがある。

（「殺身成仁」（身を殺して仁を成す）の出典は論語です。「身を殺して」は自分を犠牲にする、という意味です。）

そもそも「殺身成仁」は論語にあるのだから、頭山満が残した言葉ではない。ただ、自分を犠牲にするのだからと、深く考えずに〝自爆テロ〟と即断する人があってもおかしくない。日本では死語に等しいが、「殺身成仁」が韓国で話題になったことがある。「東洋経済日報」の記事を同サイトから引こう。「東洋経済日報」は在日韓国人によって発刊された週刊新聞で、「（韓日）両国の掛け橋である唯一の経済専門紙」。JR新大久保駅で線路に転落した男性を助けようとして韓国人留学生李秀賢さんら三人が亡くなった事故。記憶している方も多いだろう。

◆

（二〇〇一年二月二日の記事）

「殺身成仁」を体現した李秀賢さん、韓日交流時代に尊い犠牲

駅のホームから落ちた男性を助けようとして自らも犠牲になった韓国人留学生・李秀賢さんの死は、図らずも韓国人留学生の存在と韓日関係、人間の善意と勇気を世間に知らしめた。（略）

「殺身成仁の崇高な犠牲精神は、韓日両国民の心の中に永遠に記憶されるでしょう」と金大中大統領は、弔文の中で表現した。「殺身成仁」は「自分の命を犠牲にしても仁を成す」の意で、論語から来ているという。（略）

◆

〝自爆テロ〟という理解がいかに誤っているかは明らかだ。韓国語では殺身成仁が自動詞になる、という。自発的に「仁を成す」のであって、他人に言われたからではないし、まして他人に「勧奨する」ものでもない。

以下に見る通り、他人を巻き込むのは「殺身成仁」の対極にある。それは志士仁人の所行ではない。

出典は論語。原文は「子曰、志士仁人、無求生以害仁、有殺身以成仁。」

「子曰く、志士仁人は生を求めて以て仁を害することなく、身を殺して以て仁を成すことあり。」

勤王の志士などという時の「志士」の典拠がこれだ。子ども向けにわかりやすく訳したサイト（「新潟小川屋」の中の「衛靈公第十五　３９７」、ただし店舗のサイトとはリンクしていない）があったので、それを借りるとこうなる。傍線部が「有殺身以成仁（身を殺して以て仁を成すことあり）」に相当する。

〔子供論語　意訳〕

孔子様がおっしゃった、「志が高く愛情深い人は、人はどうなろうと自分だけは助かりたいなどと考えることがない。むしろ、自分は助からなくとも人を助けようと考えている」と。（ルビは略。）

「殺身成仁」で称揚されているのは、誰もが認めるような、人としての気高い生き方である。五輪塔正面の「先亡霊塔」と裏面の「殺身成仁」は対に考えないといけないのだ。言い換えると、頭山満は「ここに志士仁人眠る」（君たちは人の模範になるような立派な生き方をした）と書いているのである。

付記　五輪塔「獨朗天眞」の四文字は天台宗の仏教用語「天眞獨朗」に該当する。「凡夫が生死を超えて仏となること」（大辞林第三版、前後を略して引用）

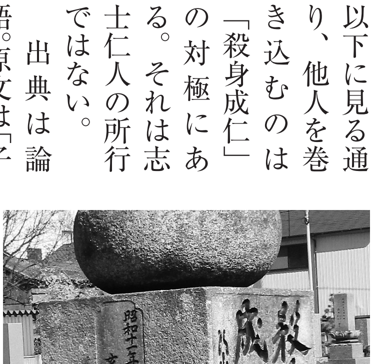

写真２　五輪塔最下段の裏面と右側面。「殺身成仁」が頭山満書。物故した玄洋社員の生き方を「殺身成仁」と表現したもの。